

令和4年度伊勢原市行財政改革推進委員会第4回会議録

〔事務局〕 企画部経営企画課

〔開催日時〕 令和5年1月11日（水）午後2時30分から午後4時まで

〔開催場所〕 議会全員協議会室

〔出席委員〕 7名

鈴木靖夫（会長）

青柳貞徳（副会長）

大川 要

河原啓子

中村隆志

引田道人

吉野 太

〔事務局職員〕 5名

山室好正（企画部長）

酒井哲也（企画部行政経営担当部長）

桐生尚直（企画部参事兼公共施設マネジメント課長）

山口博巳（経営企画課行政経営担当課長）

都竹新平（経営企画課行政経営係長）

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 なし

《議事の経過》

1 議題

- (1) (仮称) 第6次行財政改革推進計画の検討状況について
- (2) 地方公務員の定年引上げについて
- (3) 公共施設等総合管理計画改定等に向けた「公共施設等の管理に関する基本的な考え方(素案)」について
- (4) 公共施設等総合管理基金の創設について

2 その他

※質疑応答・意見等は別紙1のとおり

1 議題

(1) (仮称) 第 6 次行財政改革推進計画の検討状況について

	[質 問]	[回 答]
1	(仮称) 第 6 次行財政改革推進計画の基本理念は何か。	「・持続的な行財政運営の実現に向けて、市民に信頼され、健全で安定した財政運営を図るための財務マネジメントを強化していくこと」及び「・限られた経営資源で持続的に質の高い行政サービスを提供するため、事務事業の見直しや様々な主体との連携を図り、効果的・効率的な行財政運営を推進していくこと」を基本理念と捉えている。

(2) 地方公務員の定年引上げについて

	[質 問]	[回 答]
1	定年引上げ制度については、他市や民間企業を参考にしたのか。	地方公務員の定年引上げは、令和 5 年度に施行されるものであるが、それに向けて、各自治体が定数条例の改正や定員管理計画の策定など具体的な対応を進めている。民間企業の対応については、特段参考としていない。
2	定年引上げに係る職員の意向把握は、若い職員も含めて全体で行ったのか。	全体では行っていない。直近 5 年程度で定年引上げの対象となる職員に対して、意向把握を行った。
3	現行において、定年退職後、短時間再任用を選択する職員の割合はどの程度か。	8 割程度である。

[意 見]

<ul style="list-style-type: none"> ・定年引上げに係る制度設計を示すにあたっては、例えば、今回の制度改正を契機に行政経験の豊富な定年引上げ職員のスキルを活かせる場や若手の活躍の場が拡充されるなど、前向きな理念を先に示した方が理解を得られやすいと思う。 ・定年引上げ対象職員の業務内容や配置については、対象職員のモチベーションだけでなく組織全体の士気にかかわるため、十分に検討した方が良い。 ・職員構成や職員の質は市民サービスに大きく関わってくるため、サービスの低下を招かぬよう市の将来を見据えた定員管理をしてもらいたい。
--

(3) 公共施設等総合管理計画改定等に向けた「公共施設等の管理に関する基本的な考え方(素案)」について

[意 見]

<ul style="list-style-type: none"> ・今後のまちづくりの方向としてコンパクトシティの実現に向けた取組が推進されており、公共施設等総合管理計画においても、施設の統廃合・集約化が進められるものと考えられる。今後、地域によっては過疎化が進むことも考えられるが、高齢者等にも配慮した計画

にしてもらいたい。

(4) 公共施設等総合管理基金の創設について

[質 問]

[回 答]

1	優先度、タイムスケジュールが大切であり、確実に実行してもらいたい。	今後 10 年間でどの施設を、いつまでに、どのようにしていくかを示せるように公共施設再配置プランの策定を進めている。
2	休眠状態の基金はどのように整理したか。	公共施設等総合管理基金の創設とともに、既存の特定目的基金のうち、近年、計画的な積立てや取崩しを行っておらず、資産の有効活用が図られていない休眠状態にある 4 本の目的基金について、基金の廃止・統合を行った。

[意 見]

- ・優先順位をしっかりと考えて、積み立てていかなければならない。
- ・当面の 10 年間を見通して基金の運用を行うとのことであるが、10 年後以降の基金の積み立てへの対応も考えなければならない。
- ・計画倒れにならないようにしてもらいたい。

2 その他

特になし

以 上